

7 23 『後漢書』列女伝

「2」次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。（滋賀大）

太原王覇妻者、不知何氏之女也。霸少立高節、光武時連徵不仕。（中略）妻亦美志行。初霸与同郡令狐子伯為友。後子伯為楚相、而其子為郡功曹。子伯乃令子奉書於霸。車馬服從、雍容如也。霸子時方耕於野、聞賓至投耒而歸、見令狐子、沮作不能仰視。霸目之、有愧容。客去而久臥不起。妻怪問其故。始不肯告。妻請罪、而後言曰、「吾与子伯素不相若。向見其子容服甚光、举措有適。而我兒曹蓬髮歷齒、未知礼則、見客而有慙色。父子恩深、不覺自失耳。」妻曰、「君少修清節、不顧榮祿。今子伯之貴孰与君之高。奈何忘宿志而慙兒女子乎。」霸屈起而笑曰、「有是哉。」遂共終身隱遁。（『後漢書』列女伝）

●句法・用字チェック ※字に付せる数字は「明説」の頁数也。

令乃相亦少女者

終身哉是奈何孰与耳未適不相若与肯方於

問1 二重傍線部(a)(b)を、送り仮名も含めてすべて平仮名で書き下せ。現代仮名づかいでもよい。
(a)意味〓ちようど
(b)意味〓ふさわしい

問2 傍線部A・Bを、書き下し文になおせ。

動詞の活用にご注意

A ● 於↓に

● 奉る〔訓・四段〕／奉ず〔音・サ変〕

B ● 肯んず〔サ変〕 せ／し／す／する／すれ／せよ

● 告ぐ〔下二段〕 ※告げ／ず ↓ げ／げ／ぐ／ぐる／ぐれ／げよ

問3 波線部（ア）とあるが、王覇は何を恥じたのか、説明せよ。

①まずは、直前。

「**覇子**、時方耕於野、聞賓至投耒而帰、**見令狐子**、沮作不能仰視。」

・王覇の子が、令狐子伯の子を見て、●氣後れして、見ることもできなかった。

・父王覇は、それを見て、恥じた。

②次に、王覇が妻にした説明から。

「向**見其子**容服甚光、举措有適。而**我兒曹蓬髮歷齒**、未知礼則、**見客而有慙色**。」

・令狐子伯の子Ⅱ姿も立派、所作も適切

●王覇の子Ⅱ姿はみすばらしい、礼儀も知らない、おどおどしている

答案は、「自分の子の駄目なところⅡ●印」を書く。1容姿、2礼儀（ふるまい）、

3態度（氣後れ）の三要素が必要。

問4 傍線部Cを、現代語訳せよ。

今 子伯之貴**孰与**君之高。AとBはどちらがよいか。↓「Bがよい」の含意

●子伯之貴Ⅱ令狐子伯の身分が高いこと

●君之高Ⅱあなた（王覇）が高節を守っていること。（出世や金銭を求めないこと）

☆孰与（いずれぞ）↓疑問で止めず、「Bの方がよい（上だ、すぐれている）」の意味ま
でいう。

◎問5 波線部（イ）には、王覇のどのような気持ちが表れているか、四〇字程度で
説明せよ。

☆まず訳す。

●「覇屈起而笑曰、「有是哉。」Ⅱ王覇は、身を起こして笑って言った、「これがあつたなあ。」

▼「これ」とは？Ⅱ「清節」とか「宿志」とかいわれている、王覇のポリシー。

☆過程を整理

王覇Ⅱ能力の高い、立派な人物であるが、出世やお金に惑わされないという志にし
たがって行動してきた人。

←

自分の子を他と比べたことで、一瞬志を忘れ、しよげちゃった。

←

妻にあなたには志があるではないか、といわれた。

←

自分には、志があつたなあ、と気づき直した。

☆押さえの「気持ち」Ⅱ「起きず」↓「起き上がって笑った」という変化に着目。

●元氣を取り戻し、志の通りに生きようという意欲が湧く↑自分でことばを考える。

【冊子の解答】

問1 (a)Ⅱまさに (b)Ⅱかなふ (う)

問2 AⅡ乃ち子をして書を覇に奉ぜしむ

BⅡ始め（は）告ぐるを肯ぜず

問3 （容貌や振る舞いのとても立派であつた令狐子伯の子に比べて、）自分の子が
見た目も悪く、礼法の規則も知らず、立派な人物を前にと氣後れしてしまつてい
たこと。

問4 今、令狐子伯の身分が高いことと、あなたの志が高潔であることとはどちらが
優れているだろうか。もちろん、あなたです。

問5 若い頃から高潔な志を持って生きてきたことを妻の言葉で思い出し、元氣を取
り戻した気持ち。（43字）

「3」次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。（滋賀大）

注①太原王霸妻者、不知何氏之女也。霸少立注②高節、注③光武時連徵不仕。（中略）妻亦注④美志行。初霸与同郡令狐子伯為友。後子伯為注⑤楚相、而其子為注⑥郡功曹。子伯A乃令子奉書於霸。車馬注⑦服從、注⑧雍容如也。霸子、時(a)方耕於野、聞賓至投耒而歸、見令注⑨狐子、沮作不能仰視。霸目之、(ア)有愧容。客去而久臥不起。妻怪問其故。B始不肯告。注⑩妻請罪、而後言曰、「吾与子伯素不相若。向見其子容服甚光、注⑪举措有(b)適。而我注⑫兒曹注⑬蓬髮歷齒、未知礼則、見客而有慙色。注⑭父子恩深、不覺自失耳。」妻曰、「君少修清節、不顧榮祿。C今子伯之貴孰与君之高。奈何忘宿志而慙兒女子乎。」(イ)霸注⑮屈起而笑曰、「有是哉。」遂共終身隱遁。（『後漢書』列女伝による）

- 5 -

- 注 ① 太原——地名。今の山西省。
② 高節——高潔な節操。
③ 光武——後漢の光武帝。
④ 美志行——志と行いが立派である。
⑤ 楚相——楚の国の宰相。
⑥ 郡功曹——郡の人事を担当する官。
⑦ 服従——お供の者。
⑧ 雍容如——堂々としたさま。
⑨ 沮作——気後れして恥じ入る。
⑩ 請罪——謝る。

- ⑪ 举措——立ち居振る舞い。
⑫ 兒曹——子供。
⑬ 蓬髮歷齒——ぼさぼさの髪の毛とがたがたの歯並び。
⑭ 父子恩深——父と子の情愛が深い。
⑮ 屈起——がばつと身を起こす。

問1 二重傍線部(a)(b)を、送り仮名も含めてすべて平仮名で書き下せ。現代仮名づかいでもよい。

(a) 「 「 (b) 「 「

問2 傍線部A・Bを、書き下し文になおせ。

A 「 「
B 「 「

問3 波線部(ア)とあるが、王霸は何を恥じたのか、説明せよ。

「目安」8字

問4 傍線部Cを、現代語訳せよ。

◎問5 波線部(イ)には、王霸のどのような気持ちが表れているか、四〇字程度で説明せよ。